

【活動エリア】 自由学園南沢キャンパス，向山緑地・立野川源流域

【活動日】

【代表名】 最高学部長 高橋和也 (実習担当：柏木めぐみ・南雲八恵)

【主な活動内容・紹介】

自由学園の南沢キャンパス内には，東久留米市内を流れる黒目川の支流である落合川の支流の立野川が流れています。その立野川の南には，台地との高低差約 10 M の北斜面（立野川崖線）があり，その縁崖林には武蔵野の野生植物が今も多く生育しています。

東久留米市はかつて農地や雑木林が多く，野生植物が生育する自然豊かな地域でした。しかし 1960 年頃から，人口増加に伴い宅地開発が進み，自然が急速に減少し始めました。そこで自由学園は，このことを危惧した地域の方々と共に，東久留米の豊かな自然を維持するための保全活動を始めました。現在は「庭園・自然環境：草本・灌木」グループとして，最高学部(大学部) 1・2 年生 8 名で，この自然環境を保全していくために，構内を中心とした調査や手入れ等を行なっています。

さらに 2009 年から，自由学園から 1 km 上流の向山緑地・立野川源流域を参照地として，動植物や湧水のような観察，気温等の測定も行なっています。そしてこれまでの観察調査の記録等の自然誌資料を元に，自然環境の変化についてまとめ，これから先どのように豊かな自然環境を維持・復元していくのか，保全活動について考えています。



南沢キャンパス内の「野生植物観察実験区」の一つ。(2020年4月23日)



在来野生種の保全のようす(2021年5月5日)

環境トピックス：自由学園南沢キャンパスでの自然環境保全の取り組み

自由学園の学生，生徒，児童，教職員にも南沢キャンパスの自然環境についてより知ってもらうために，私達のグループでは，毎月，正門近くの掲示板に自然環境に関する展示をしています。その時々には観察することのできる植物や，構内に侵入している外来種について等も掲示して，構内に自生する在来の野生植物の保全に取り組んでいます。



南沢キャンパスの正門近くの掲示板



左：南沢キャンパスを流れる立野川の保全のようす(2021年4月21日)
右：ミゾソバ(タデ科) (2020年10月8日)

自由学園構内を流れる立野川周辺の自然環境保全については，男子部(中等科・高等科)の「川管理」グループの生徒達と一緒に取り組んでいます。例えば，オオカワジシャやキショウブ等の外来種の駆除，在来のミゾソバやセキショウの保護等の保全を行っています。